記者発表資料

がんばろう！東北

平成３０年　７月６日
国土交通省東北地方整備局

平成29年東北地方一級河川の水質現況を発表

３河川が「水質が最も良好な河川」となりました！

平成 29 年(1～12 月)の東北地方一級河川 12 水系における水質調査結果をとりまとめましたので、お知らせします。

◎阿武隈川水系荒川が 8 年連続、雄物川水系玉川が 2 年連続、最上川水系鮭川が新たに「水質が最も良好な河川」となりました。

◎「生活環境の保全に関する環境基準」のうち、水質汚濁の代表的な指標である BOD または COD の満足状況は、12 水系中 8 水系で「100%」の調査地点で満足する結果となる。

◎「人の健康の保護に関する環境基準」の満足状況は、1 地点で基準値を超過（自然由来と推測）

◎住民参加による水質調査も実施。「今後の河川水質管理指標による調査」「水生生物による簡易水質調査」の両調査で、合わせて「670 人、21 団体」に参加していただき調査を実施。

◎ダイオキシン類実態調査、内分泌かく乱物質実態調査の結果、いずれも基準値を満足

◎ 水質事故は 192 件発生。原因は油流出が 8 割。家庭で灯油タンクから小分け中にその場を離れるなどの不注意によるものが多い。

◎河川ゴミ分類調査の結果、河川内のゴミの 80%が生活ゴミ！

◎【コラム】米代川　～地域と連携した水環境向上への取り組み～

・H30 年 1 月に米代川に出現したアザラシ「ヨネちゃん」の写真もあります。

※本資料は東北地方整備局ホームページ内で掲載しています。
http://www.thr.mlit.go.jp/bumon/b00037/k00290/river-hp/kasen/plaza/jiko/suisitu_top/index_suisitu_top.html

※国土交通本省ホームページ内で、「全国版の水質現況」及び「各地点調査結果を含む詳細版」を掲載しています。
http://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kankyo/kankyou/suisitu/index.html

＜発表記者会＞青森県政記者会、岩手県政記者クラブ、秋田県政記者会、宮城県政記者会、山形県政記者クラブ、福島県政記者クラブ、東北電力記者会、東北専門記者会

［本件に対するお問い合わせ先］
国土交通省 東北地方整備局 河川部 河川環境課
課　　長　白戸　孝（内線 ３６５１）
課 長 補 佐　福田　修（内線 ３６５６）
仙台市青葉区本町３－３－１　仙台合同庁舎Ｂ棟
℡ 022-225-2171（代）　FAX 022-215-3754

平成 29 年

東北地方
一級河川の水質現況



Recent condition of water quality of class A river in Tohoku

2017

1．水質調査の概要
2．主要河川の地点別年平均水質
3．生活環境の保全に関する環境基準の満足状況
4．人の健康の保護に関する環境基準の満足状況
5．住民参加による水質調査
6．ダイオキシン類実態調査結果
7．内分泌かく乱物質実態調査結果
8．水質事故等の発生状況
9．河川ゴミ分類調査について

コラム

米代川

～地域と連携した
水環境向上への取り組み～

平成 29 年東北地方一級河川の水質現況

CONTENTS

１．水質調査の概要 ····· 01

２．主要河川の地点別年平均水質 ····· 02

３．生活環境の保全に関する環境基準の満足状況 ····· 03

４．人の健康の保護に関する環境基準の満足状況 ····· 04

５．住民参加による水質調査 ····· 05

　１）今後の河川水質管理指標による調査 ····· 05

　２）水生生物による簡易水質調査（水生生物調査） ····· 09

６．ダイオキシン類実態調査結果 ····· 10

７．内分泌かく乱物質実態調査結果 ····· 10

８．水質事故等の発生状況 ····· 11

９．河川ゴミ分類調査について ····· 13

コラム

米代川

～地域と連携した水環境向上の取り組み～ ····· 16

（参考資料）各調査地点（ＢＯＤ・ＣＯＤ）調査結果及び満足状況 ····· 18

１．水質調査の概要

東北地方整備局では、河川の適正な利用や河川環境の整備と保全等を図るために河川等の水質を定期的及び継続的に調査し、水質状況の監視および把握をおこなっています。

水質の変遷として、高度成長期には急速な都市化、工業化により全国的に公害問題が健在するなど自然環境の悪化が進行し、河川でも水質汚濁により「汚い、臭い、遊べない」と言われる河川が多くありました。その後の排水規制、下水道整備、河川浄化事業等の結果により、現在の水質は大幅に改善されています。

東北地方整備局では、昭和 35 年から一級河川（国土交通省大臣管理区間）において水質調査を実施しており、本資料で平成２９年１月～１２月の水質調査結果をご紹介します。

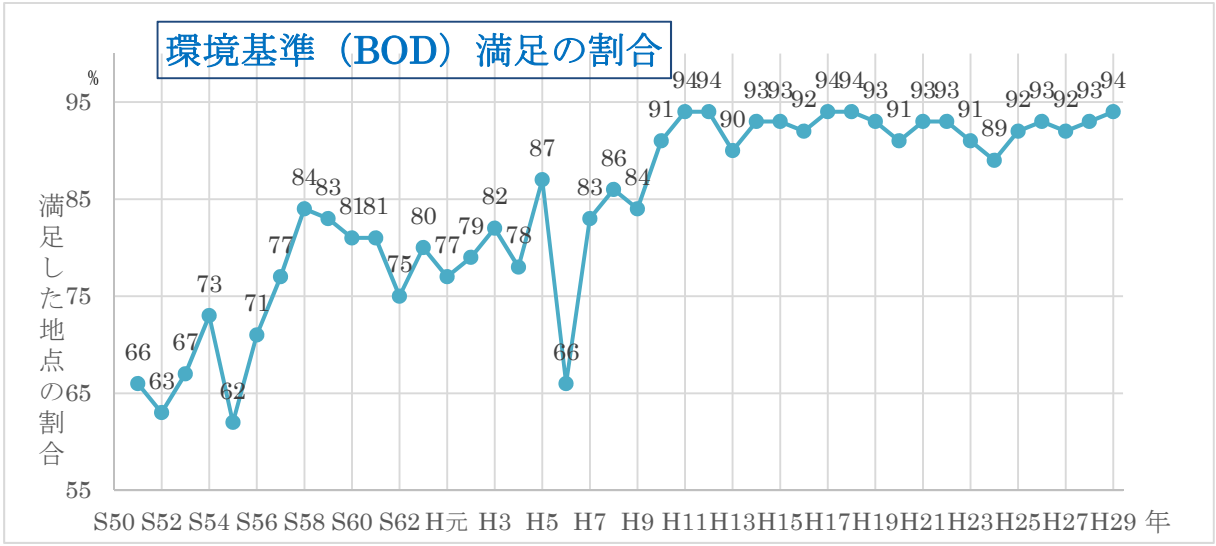
１）東北地方整備局管内　１２水系（全１５１地点で水質調査を実施）

（阿武隈川、名取川、鳴瀬川、北上川、馬淵川、高瀬川、岩木川、米代川、雄物川、子吉川、最上川、赤川）

水質調査地点数	地点数	合計地点数
河川	１２６	１５１
湖沼	６	
ダム湖	１９	

２）生活環境の保全に関する環境基準（BOD）の満足状況の経年変化

（東北管内１５１地点）



２．主要河川の地点別年平均水質

平成 29 年水質調査結果

- **阿武隈川水系荒川が８年連続で「平均的な水質（BOD 値）が最も良好な河川※」を維持**
- **雄物川水系玉川が２年連続で、Ｈ２９年は新たに最上川水系鮭川も「平均的な水質（BOD 値）が最も良好な河川」となりました。**

平成 29 年の東北地方 20 河川の地点別年平均値

水系名	河川名	河川全体BOD平均値	調査地点		各地点のBOD年平均値
			地点数	府県名	
阿武隈川	阿武隈川（あぶくまがわ）	1.4	7	宮城 福島	須賀川 0.9 阿久津 1.1 高田橋 2.0 黒岩 1.4 伏黒 1.1 丸森 1.8 岩沼 1.2
阿武隈川	荒川（あらかわ）	<0.5	2	福島	荒川橋 <0.5 信夫橋 <0.5
名取川	名取川（なとりがわ）	1.0	2	宮城	名取橋 1.1 閖上大橋 0.8
鳴瀬川	鳴瀬川（なるせがわ）	1.3	4	宮城	三本木 1.4 下中ノ目 1.1 南郷 1.5 小野 1.3
鳴瀬川	吉田川（よしだがわ）	1.3	2	宮城	落合 1.3 鹿島台 1.2
北上川	北上川（きたかみがわ）	0.9	16	岩手 宮城	船田橋 0.7 四十四田橋 0.7 南大橋 0.8 紫波橋 0.9 朝日橋 1.1 昭和橋 1.0 珊瑚橋 1.0 金ヶ崎橋 1.0 藤橋 0.9 狐禅寺 1.0 北上大橋 1.0 北上川橋 1.0 大泉 0.9 登米 0.8 飯野川 1.0 飯野川橋 0.8
北上川	旧北上川（きゅうきたかみがわ）	0.9	3	宮城	和渕 0.9 鹿又 0.8 門脇 0.9
北上川	江合川（えあいがわ）	0.7	4	宮城	轟 0.5 荒雄 0.9 短台 0.9 大深沢 0.5
北上川	和賀川（わがかわ）	0.8	3	岩手	山室橋 0.7 九年橋 0.8 切留 0.8
北上川	猿ヶ石川（さるがいしかわ）	0.7	3	岩手	落合橋 0.6 安野橋 1.0 谷内 0.6
北上川	胆沢川（いさわがわ）	0.6	3	岩手	再巡橋 0.7 下嵐江 0.5 望み大橋 0.5
馬淵川	馬淵川（まべちがわ）	0.9	3	青森	櫛引橋 0.9 尻内橋 0.9 大橋 0.9
岩木川	岩木川（いわきがわ）	1.2	12	青森	上岩木橋 0.9 安東橋 0.7 幡龍橋 1.0 鶴寿橋 1.4 乾橋 1.6 三好橋 1.6 神田橋 1.3 津軽大橋 1.3 十三湖大橋 1.2 十三湖中央 0.8 山田川河口 1.1 鳥谷川河口 1.0
米代川	米代川（よねしろがわ）	0.7	5	秋田	十二所 0.6 新真中橋（真中橋） 0.6 鷹巣 0.7 二ツ井 0.7 能代 0.7
雄物川	雄物川（おものがわ）	0.6	5	秋田	酒蒔橋 <0.5 雄物川橋 0.6 大曲橋 0.7 岳見橋 0.6 椿川 0.6
雄物川	玉川（たまがわ）	0.5	2	秋田	長野 0.5 玉川橋 0.5
子吉川	子吉川（こよしがわ）	0.6	2	秋田	宮内 0.6 本荘大橋 0.6
最上川	最上川（もがみがわ）	0.8	8	山形	糠野目 1.1 長井橋（小出） 0.9 谷地橋（下野） 0.9 碁点橋（稲下） 0.9 堀内 0.8 高屋 0.6 砂越 0.7 両羽橋 0.6
最上川	鮭川（さけがわ）	0.5	2	山形	八千代橋 0.5 戸沢橋 0.5
赤川	赤川（あかがわ）	0.6	3	山形	東橋 0.5 蛾眉橋（横山） 0.6 新川橋（浜中） 0.6

表中の<は、定量下限値であることを示す。

※「平均的な水質が最も良好な河川」とは、以下の条件を満たす河川のうち、各調査地点の BOD 年平均値の平均が 0.5mg/ℓ（環境省の定める BOD の報告下限値）である河川としている。
・一級河川（本川）：直轄管理区間に調査地点が２以上ある河川
・一級河川（支川）：直轄管理区間延長が概ね 10km 以上、かつ直轄管理区間に調査地点が２以上ある河川

３．生活環境の保全に関する環境基準の満足状況

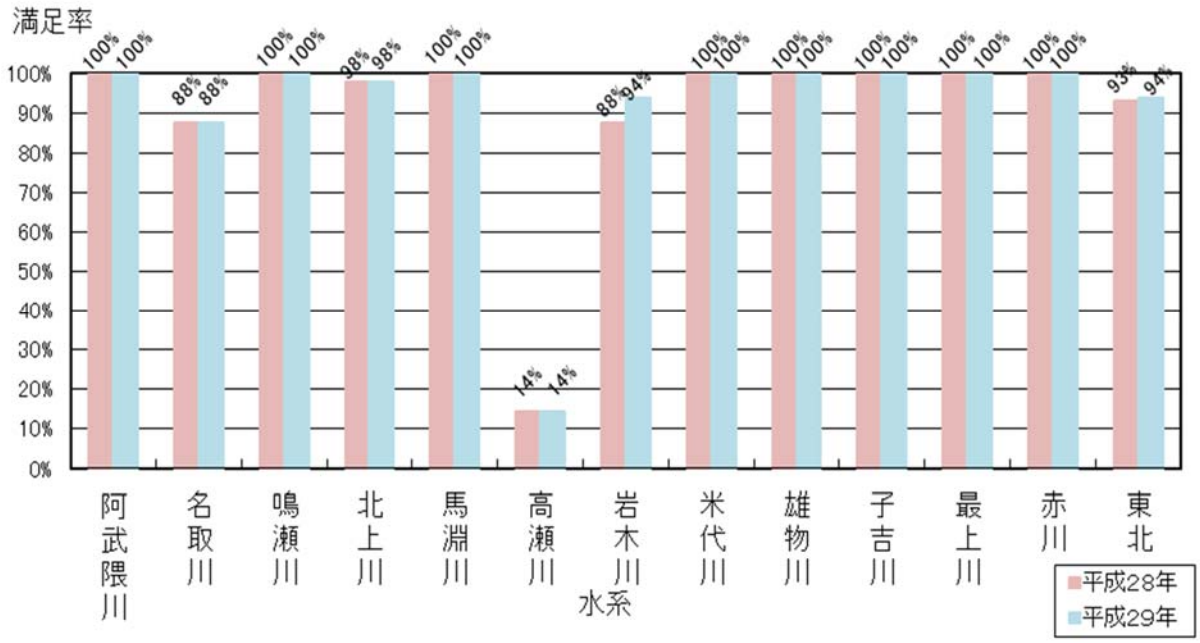
平成 29 年水質調査結果

生活環境を保全するうえで維持することが望ましい基準（環境基準）として定められている項目について水質調査を実施しています。

生活環境の保全に関する環境基準の調査項目	
ｐｈ（水素イオン濃度）	ｎ-ヘキサン抽出物質
ＢＯＤ（生物化学的酸素要求量）	総窒素
ＣＯＤ（化学的酸素要求量）	総リン
ＳＳ（浮遊物質量）	全亜鉛
ＤＯ（溶存酸素量）	ノニフェール
大腸菌群数	ＬＡＳ（直鎖ｱﾙｷﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝｽﾙﾎﾝ酸及びその塩）
	低層ＤＯ（溶存酸素量）

上記の水質調査項目のうち、水質有機汚濁の代表的な指標であるＢＯＤ値又はＣＯＤ値が環境基準値を満足した地点の状況は、１２水系中８水系で「１００％」の調査地点で満足する結果となっています。

（※高瀬川は、湖沼での調査地点が多いが、全国的にも湖沼の満足率は 39%と低い数値となっている）



※１　「環境基準」は、川の一定の区間及びダム・湖沼で、望ましい水質の目標を定めた値で、川の一定区間毎に類型が指定されており、その類型毎に基準値が定められております。
一般に河川ではＢＯＤ７５％値、ダム・湖沼ではＣＯＤ７５％値で判断します。

４．人の健康の保護に関する環境基準の満足状況

平成 29 年水質調査結果

人の健康の保護するうえでの基準（環境基準）として定められている項目について水質調査を実施しています。【２７項目】

人の健康の保護に関する環境基準の調査項目	
カドミウム	１，１，１－トリクロロエタン
全シアン	１，１，２－トリクロロエタン
鉛	トリクロロエチレン
六価クロム	テトラクロロエチレン
砒素	１，３－ジクロロプロペン
総水銀	チウラム
アルキル水銀	シマジン
ＰＣＢ	チオベンカルブ
ジクロロメタン	ベンゼン
四塩化炭素	セレン
１，２－ジクロロエタン	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素
１，１－ジクロロエチレン	ふっ素
シス－１，２－ジクロロエチレン	ほう素
	１，４－ジオキサン

上記の水質調査項目のうち、環境基準を満足できなかった調査地点及び項目は以下のとおりです。なお、自然由来によるものが原因と推定されています。

超過項目	地点名			最大値	年間平均値	環境基準値（年間平均値）	原因
	水系名	河川名	地点名	(mg／L)	(mg／L)	(mg／L)	
砒素	北上川	江合川	大深沢	0.026	**0.018**	0.010 以下	自然由来

５．住民参加による水質調査

１）今後の河川水質管理指標による調査

河川をＢＯＤだけでなく多様な視点で評価する今後の河川水質指標による調査を、平成 17 年から実施しています。

この背景には、一級河川のＢＯＤ（またはＣＯＤ）値が環境基準値を満足している割合が 9 割に達し、水質改善が進む一方で、水質改善に伴い、人々が河川とふれあう機会が増え、河川の多様な生態系に対する関心が高まっているため、ＢＯＤだけでなく多様な視点で河川を捉えることが求められていることがあります。

調査内容には、住民等にご協力していただき評価していただく項目が含まれており、河川管理者だけでない、住民参加型の調査となっています。（ゴミの量、透視度、川底の感触、水の臭い、生物の生息）

平成２９年度の調査への住民等参加は、１１水系２５地点において、小中学生等の延べ６６７人、２１団体の参加を得て調査を実施しました。

（※水生生物による簡易水質調査参加人数との重複あり）

今後の河川水質管理の指標【４つの評価項目】（赤字が住民による評価項目）

① 「人と河川の豊かなふれあいの確保」
　水質に関係する分かりやすい指標（ゴミの量、透視度、川底の感触、水の臭い、糞便性大腸菌群数）により評価

② 「豊かな生態系の確保」
　水生生物の生息・生育・繁殖に関係する指標（呼吸に支障が無いこと（DO）、毒性が無いこと（NH4-N）、生物が生息していること）により評価
（※HH4-N=アンモニウム態窒素：し尿や家庭下水中の有機物の分解に起因する）

③ 「利用しやすい水質の確保」
　上水利用・農業用水・工業用水・水産用水の利用に関係する指標（ﾄﾘﾊﾛﾒﾀﾝ生成能、2-MIB、ジオスミン、NH4-N）により評価

④ 「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」
　下流部の富栄養化や閉鎖性水域（ダム・湖沼・湾）の富栄養化への影響に関係する指標（T-N、T-P）により評価

①『人と河川の豊かなふれあいの確保』の調査結果

年間評価ランク	地点数	河川名/地点名
A	1	阿武隈川水系　荒川/日の倉橋下流
B	8	最上川水系　金山川/水辺の学校 最上川/長崎鉄道橋下流 鮭川/戸沢橋 丹生川/丹生川大橋 米代川水系　米代川/能代市二ツ井町大林地区 米代川/北秋田市栄地内 北上川水系　内ノ原川/水車橋 北上川/江崎大橋
C	7	岩木川水系　岩木川/弘前水辺プラザ 最上川水系　最上川/睦橋下流 最上川/本合海大橋 北上川水系　江合川/桜の目橋 名取川水系　広瀬川/ＪＲ広瀬川鉄道橋 広瀬川/八本松 雄物川水系　雄物川/沼館橋
D	2	馬淵川水系　馬淵川/水辺の楽校 鳴瀬川水系　吉田川/高田橋
合計	１８	

住民との協働項目

ランク	説明	ランクのイメージ	評価項目と評価レベル※1) ゴミの量	透視度 (cm)※2)	川底の感触 ※4)	水のにおい	糞便性大腸菌群数 (個/100mℓ)※5)
A	顔を川の水につけやすい		川の中や水際にゴミは見あたらないまたは、ゴミはあるが全く気にならない	100以上 ※3)	不快感がない	不快でない	100以下
B	川の中に入って遊びやすい		川の中や水際にゴミは目につくが、我慢できる	70以上	ところどころヌルヌルしているが、不快でない		1000以下
C	川の中には入れないが、川に近づくことができる		川の中や水際にゴミがあって不快である	30以上	ヌルヌルしており不快である	水に鼻を近づけて不快な臭いを感じる風下の水際に立つと不快な臭いを感じる	1000を超えるもの
D	川の水に魅力がなく、川に近づきにくい		川の中や水際にゴミがあってとても不快である	30未満		風下の水際に立つと、とても不快な臭いを感じる	

※地点評価は、最も低いランクとし、年間の地点評価は、最頻ランク（最頻ランクが２つ以上の場合は低い方）としている。

②『豊かな生態系の確保』の調査結果

年間評価ランク	地点数	河川名/地点名
A	２１	阿武隈川水系　阿武隈川/丸森橋 阿武隈川/白幡橋 荒川/日の倉橋下流 岩木川水系　岩木川/弘前水辺プラザ 最上川水系　金山川/きごころ橋 金山川/水辺の楽校 最上川/長崎鉄道橋下流 最上川/睦橋下流 鮭川/観音寺橋 丹生川/丹生川大橋 子吉川水系　子吉川/西滝沢水辺プラザ 米代川水系　米代川/能代市二ツ井町大林地区 米代川/北秋田市栄地内 北上川水系　江合川/桜の目橋 内ノ原川/水車橋 北上川/江崎大橋 名取川水系　広瀬川/ＪＲ広瀬川鉄道橋 広瀬川/八本松 名取川/ＪＲ名取川鉄道橋 鳴瀬川水系　吉田川/高田橋 雄物川水系　雄物川/沼館橋
B	１	最上川水系　鮭川/戸沢橋
C	０	
D	０	
合計	２２	

住民との協働項目

ランク	説明	評価項目と評価レベル		
		DO(mg/ℓ)*1)	NH_4-N(mg/ℓ)*2)	水生生物の生息*3)
A	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好	7 以上	0.2 以下	Ⅰ. きれいな水 ・カワゲラ ・ナガレトビケラ等
B	生物の生息・生育・繁殖環境として良好	5 以上	0.5 以下	Ⅱ. 少しきたない水 ・コガタシマトビケラ ・オオシマトビケラ等
C	生物の生息・生育・繁殖環境として良好とは言えない	3 以上	2.0 以下	Ⅲ.きたない水 ・ミズムシ ・ミズカマキリ等
D	生物が生息・生育・繁殖しにくい	3 未満	2.0 を超えるもの	Ⅳ. 大変きたない水 ・セスジユスリカ ・チョウバエ等

※1)「ＤＯ」： 溶存酸素。水生生物が生きていくうえで不可欠な水中の酸素量。
※2)「NH4-N」： アンモニウム態窒素。水生生物に影響を与える毒性を評価する指標。
※3)水生生物の生息は流れのある瀬で調査を実施する。そのため、水生生物の生息はダム貯水池、湖沼、堰の湛水域には適用しない。
※地点評価及び年間の地点評価とも、最も低いランクとしている。

③『人と湖沼の豊かなふれあいの確保』の調査結果

年間評価ランク	地点数	河川名/地点名
A	1	阿武隈川水系摺上川　摺上川ダム
B	1	高瀬川水系　小川原湖/上北湖水浴場
C	0	
D	0	
合計	２２	

住民との協働項目

ランク	説明	ランクのイメージ	評価項目と評価レベル※1)					
			ゴミの量	透視度（cm）	湖底の感触	水のにおい		糞便性大腸菌群数（個/100mℓ）
A	顔を湖沼の水につけやすい		湖沼の中や水際にゴミは見あたらないまたは、ゴミはあるが全く気にならない	50以上	不快感がない	不快でない	アオコは確認できない	100以下
B	湖沼の中に入って遊びやすい		湖沼の中や水際にゴミは目につくが、我慢できる	25以上	ところどころヌルヌルしているが、不快でない		肉眼では水面にアオコが確認できないが、水をくんで肉眼でみるとよく確認でいる	1000以下
C	湖沼の中には入れないが、湖沼に近づくことができる		湖沼の中や水際にゴミがあって不快である	25未満	不快である	水に鼻を近づけて不快なにおいを感じる	アオコがうっすらと筋状に発生していて、水面にわずかに散らばり肉眼で確認できる	1000を超えるもの
D	湖沼の水に魅力がなく、湖沼に近づきにくい		湖沼の中や水際にゴミがあってとても不快である			水に鼻を近づけてとても不快なにおい臭いを感じる	アオコが湖面や湖岸の表面を広く覆い、かたまりもできている	

２）水生生物による簡易水質調査（水生生物調査）

水生生物は水質汚濁の長期的・複合的な影響を反映していると考えられており、これら水生生物の種類や数を調べることで、大まかな河川の水質状況を評価できます。

人間活動による河川への汚濁の影響を受け、水生生物がどのように変化するかという視点から行われた研究を基礎としています。

各水質階級を判断するための指標生物を設定しており、この生物により水質が判断されます。

また、多数の地域の住民（小中学校等）に参加して頂き、河川愛護の必要性を認識していただく良い機会にもなっています。

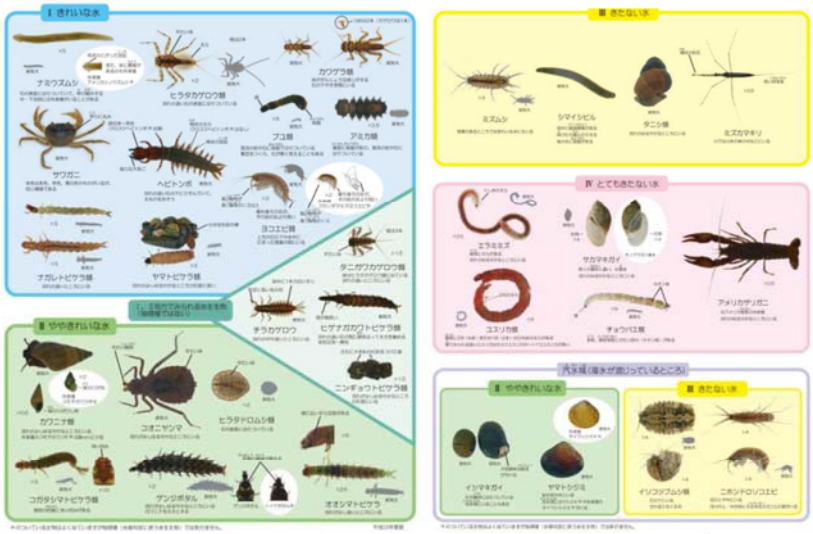
平成２９年度の調査への住民等参加は、９水系２０地点において、小中学生等の延べ６７０人、２０団体の参加を得て調査を実施しました。

（※水生生物による簡易水質調査参加人数との重複あり）

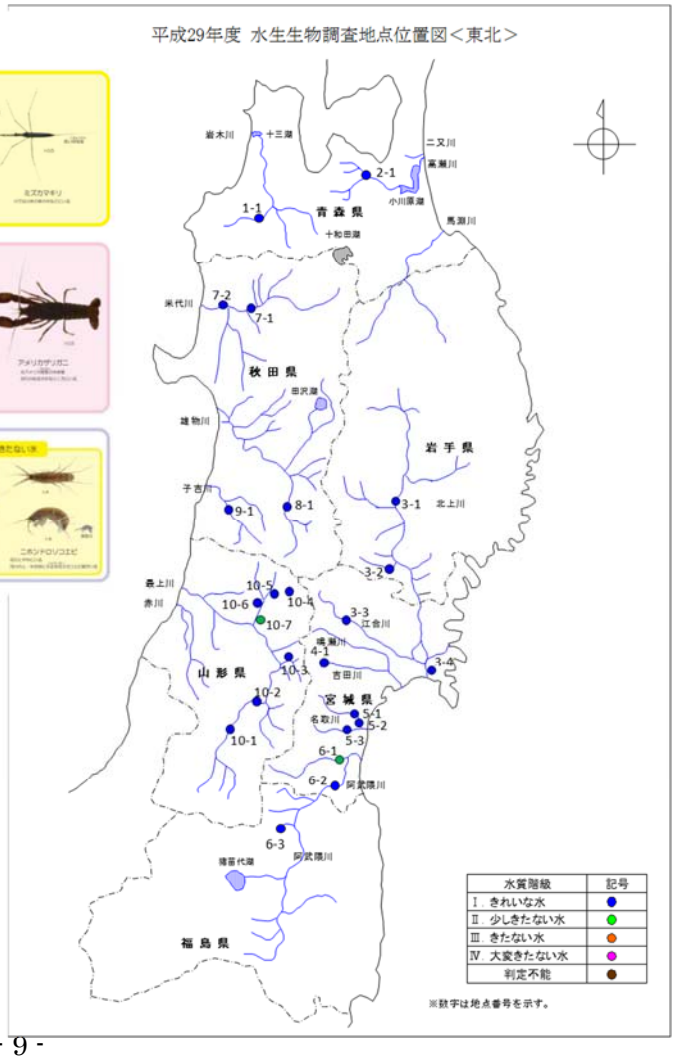
【指標生物について】

①全国的に見つけることができ、ある程度の数がいて、夏の期間は必ずいる種。
②誰にでも見つけることができ、似ている種が少なく、区別が簡単。
③水の汚れ（有機物濃度）に対しては生息する幅が狭い生物。
④水深の浅いところ（水深 30cm 以下）に生息している生物。

水質階級と指標生物



平成29年度 水生生物調査地点位置図＜東北＞



水系名	河川名	地点番号	地点名
岩木川	岩木川	1-1	水辺プラザ（和田町）
高瀬川	高瀬川	2-1	新川原橋
北上川	北上川	3-1	江崎大橋
北上川	北上川	3-2	下之橋下流
北上川	江合川	3-3	桜の目橋
北上川	内ノ原川	3-4	水車橋
鳴瀬川	吉田川	4-1	高田橋
名取川	広瀬川	5-1	JR広瀬川鉄道橋
名取川	広瀬川	5-2	八本松
名取川	名取川	5-3	JR名取川鉄道橋
阿武隈川	白石川	6-1	白幡橋
阿武隈川	阿武隈川	6-2	丸森橋
阿武隈川	荒川	6-3	日の倉橋下流
米代川	米代川	7-1	北秋田市栄地内
米代川	米代川	7-2	能代市二ツ井町大林地区
雄物川	雄物川	8-1	沼館橋
子吉川	子吉川	9-1	西滝沢水辺プラザ
最上川	最上川	10-1	塩橋
最上川	最上川	10-2	長崎
最上川	丹生川	10-3	丹生川大橋
最上川	金山川	10-4	きごころ橋
最上川	金山川	10-5	水辺の楽校
最上川	鮭川	10-6	観音寺橋
最上川	鮭川	10-7	戸沢橋

６．ダイオキシン類実態調査結果

ダイオキシン類とは、ダイオキシン類対策特別措置法に定義されている３種の化合物群です。毒性が強く、焼却、農薬等の製造、パルプの塩素漂白などで意図せずに生成され残留性が高い物質です。

平成 29 年度に実施したダイオキシン類の実態調査では、**いずれの地点においても水質・底質の環境基準（水質：1pg-TEQ/ℓ 底質：150pg-TEQ/g）を満足**しました。

ダイオキシン類（※1）については、平成 11 年度から管内 12 水系 54 地点において継続的に水質と底質の調査を実施しており、平成 29 年度は 12 水系 28 地点において調査を実施しました。水質・底質ともに、年間の評価値では全地点で環境基準を満足しております。

調査結果の概要

	調査地点数	要監視濃度※2を超えた地点数	環境基準値を超えた地点数
水質	28 地点	0 地点	0 地点
底質	28 地点	0 地点	0 地点

※1… ダイオキシン類対策特別措置法に定義される『ポリ塩化ジベンゾーパラージオキシン』『ポリ塩化ジベンゾフラン』『ダイオキシン様塩化ビフェニル』の 3 種の化合物群。非意図的に生成され、毒性が非常に強く、残留性が高い物質。

※2… 国土交通省が重点的に監視する際の目安として定めている濃度で、環境基準値の 1／2。要監視濃度を超えた地点については、その後の調査で 8 回連続して要監視濃度を下回るまで、重点監視地点として年 4 回の調査（通常の調査地点は年 1 回）を実施する。

７．内分泌かく乱物質実態調査結果

内分泌かく乱化学物質調査とは、内分泌系に影響を及ぼすことにより、生体に障害や有害な影響を引き起こす外因性の化学物質です。

平成 29 年度に実施した内分泌かく乱物質の実態調査では、**すべての地点で重点調査濃度（※2）を満足**しました。

内分泌かく乱物質（※1）については、平成 10 年度（一部項目については平成 12 年度）より管内 12 水系 13 地点において調査を実施しており、平成 29 年度は 6 水系 6 地点において 2 項目について調査を実施しました。（調査河川：高瀬川、米代川、名取川、阿武隈川、北上川、鳴瀬川）

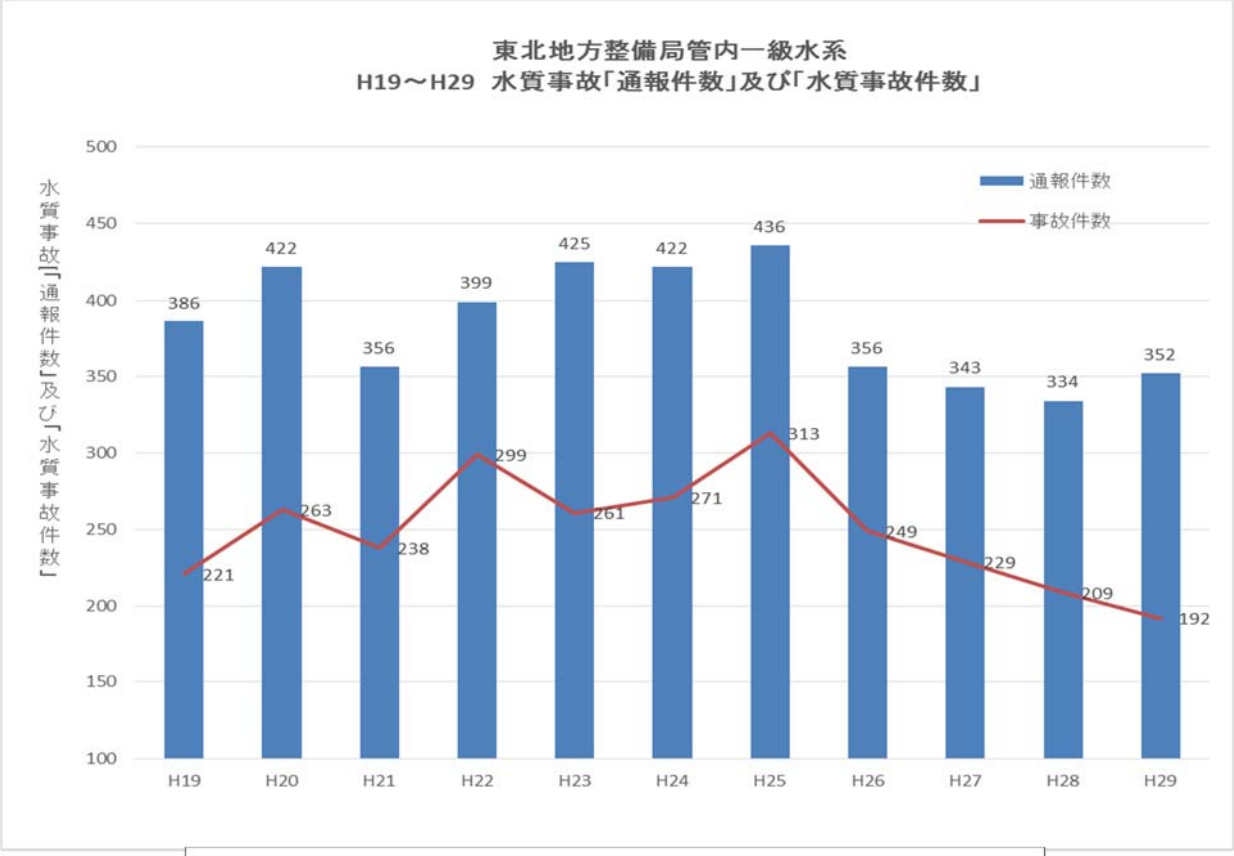
※1… 内分泌系に影響を及ぼすことにより、生体に障害や有害な影響を引き起こす外因性の化学物質。

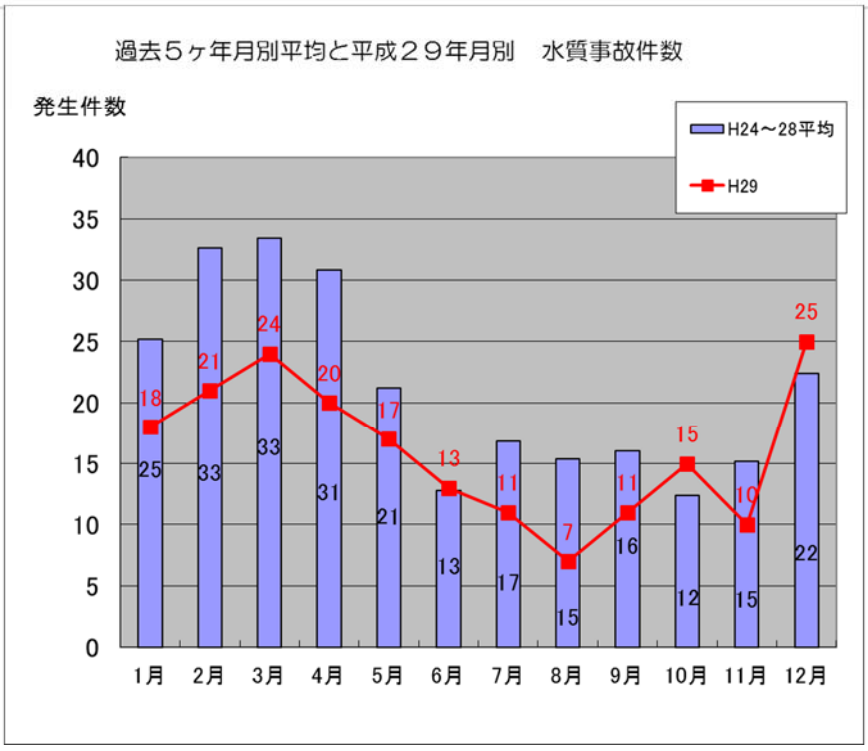
※2… 国土交通省が重点的に調査を実施する際の目安として物質ごとに定めた濃度。各項目によってその濃度は異なり、定めていない項目もある。重点調査濃度を超過した項目については、年 1 回の調査を継続的に実施する。重点調査濃度を 3 年連続して下回った場合は、重点調査地点を解除し、一般調査地点として 6 年に 1 回監視を行う。

８．水質事故等の発生状況

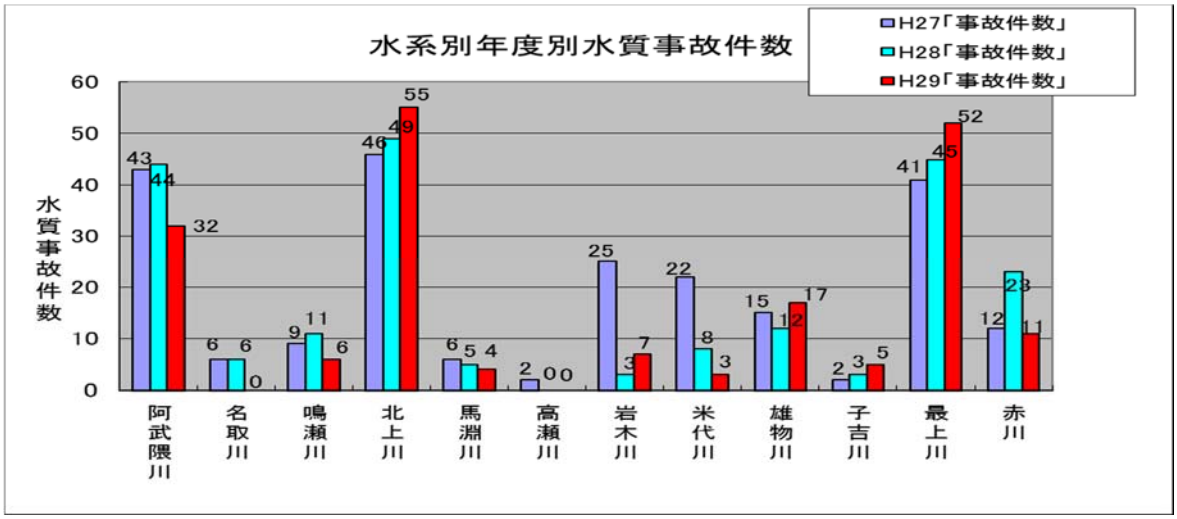
平成 29 年の東北地方整備局管内での**水質事故「通報件数」は 352 件**、内、公共用水域まで流出した**「水質事故件数」は、192 件**。**迅速な対応に**より通報のあったもののうち半数近くが水質事故にいたらずに処理されている状況です。

各水系毎に関係機関（国、県、市町村、消防、警察、水道部局等）による水質汚濁対策連絡協議会を設立し、水質事故対応にあたっています。





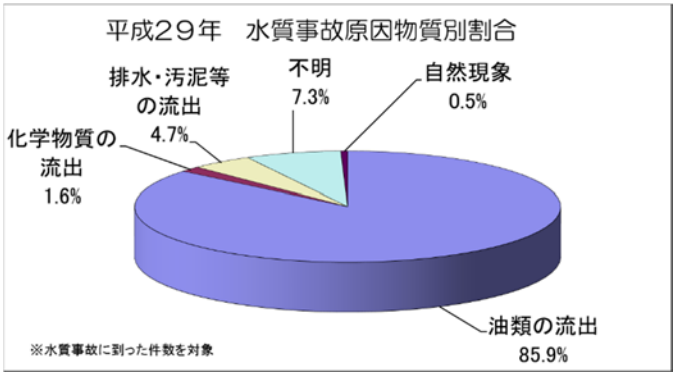
水系別では、北上川、最上川、阿武隈川の水質事故が多い。

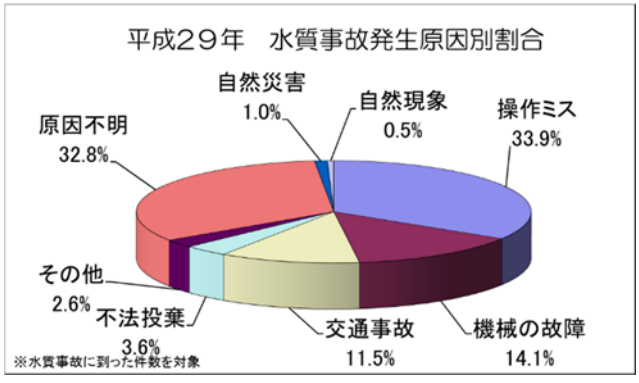


水質事故の原因は約 8 割超えが油の流出によるもの。家庭で灯油タンクから小分け中にその場を離れるなどの、不注意によるものが多い。









９．河川ゴミ分類調査について

【河川ゴミ分類調査の目的】

河川ゴミは、河川内に不法投棄されるほかに、流域内で捨てられたゴミや、農業資材が風などで飛ばされたものなどが、水路を経由して河川に到達するものも少なくありません。

河川にあるゴミを分類することで、河川ゴミの実態やゴミ発生対象者を把握し、ゴミ縮減の啓発活動の基礎資料とするため、河川ゴミ分類調査を平成２０年度から実施しています。

【河川ゴミ分類調査の方法】

河川清掃活動を行っている市民団体等にご協力を頂き、清掃で集めたゴミを以下に分類します。

- 生活ゴミ（ﾍﾟｯﾄﾎﾞﾄﾙ、空き缶、食品容器　等）
- 農地ゴミ（肥料袋、農業用ビニールシート　等）
- 河川利用ゴミ（釣り用具、キャンプ用品、花火　等）
- 不法投棄ゴミ（冷蔵庫、タイヤ　等）

分類毎の重量を計測します。（平均的な１袋の重量×袋数などで算出）







清掃活動状況
（ゴミ分類調査状況）



ゴミ分類状況

河川ゴミ分類調査結果（H29年度調査）

多数の住民の方に参加いただき河川清掃活動が行われていますが、このうちの一部の清掃活動の方にご協力を頂き、河川ゴミの分類調査を行いました。

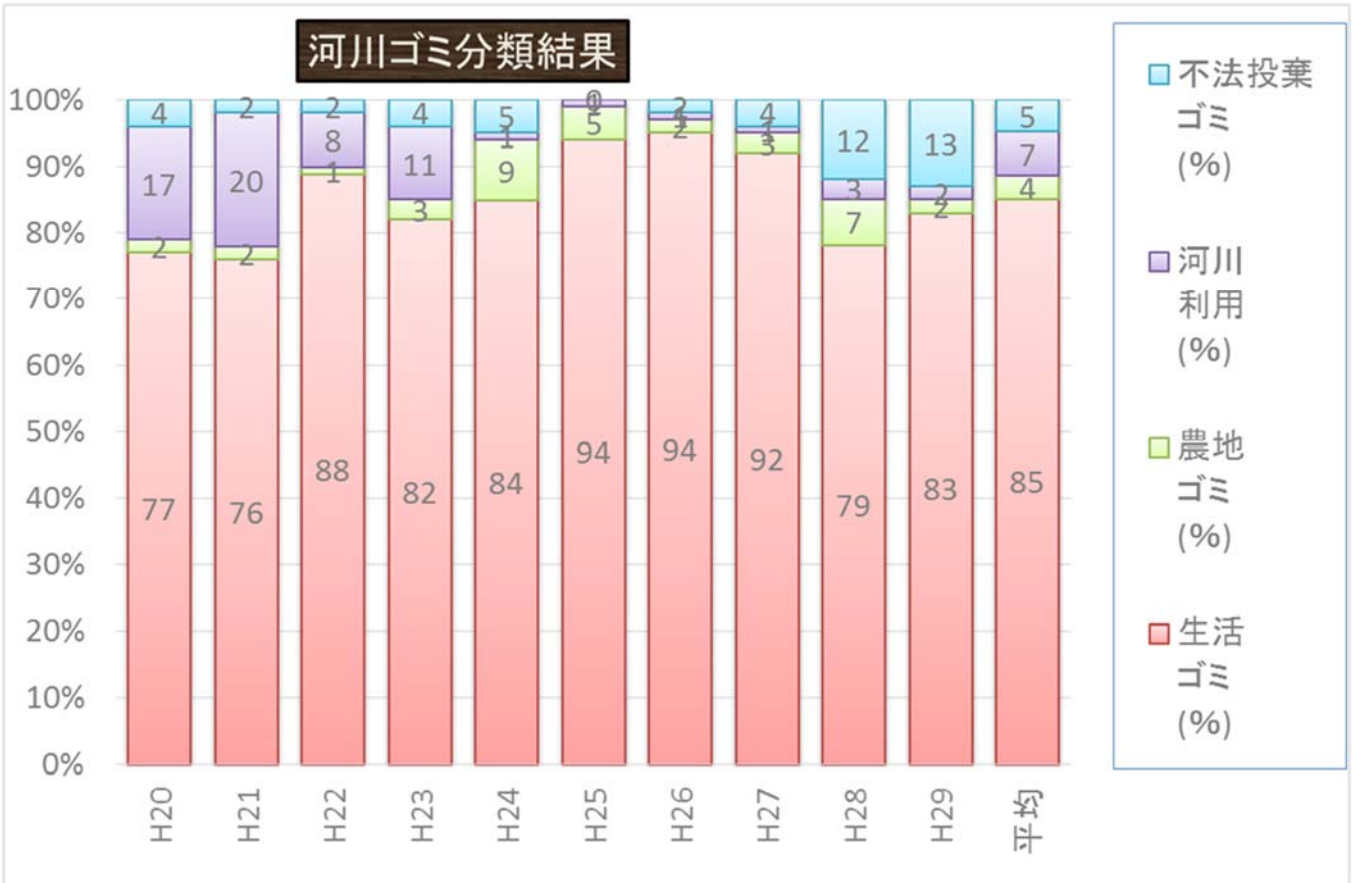
- H29年度は、12水系で「6,336人」の方に河川ゴミ分類調査を実施して頂きました。
- 河川内のゴミの**「80%」が生活ゴミ**となっています。
- **河川以外で捨てられたゴミ**が、河川ゴミの多くを占めています。



※分類は、清掃活動や河川維持作業で回収される全てのゴミが対象ではなく、清掃活動のうち、分類を行った一部のゴミを対象としています。
※ゴミの重量で比率を算出しています。
※自然ゴミ（流木や草木）は、分類の対象外としています。

河川ゴミ分類調査結果（H20年度からH29年度）

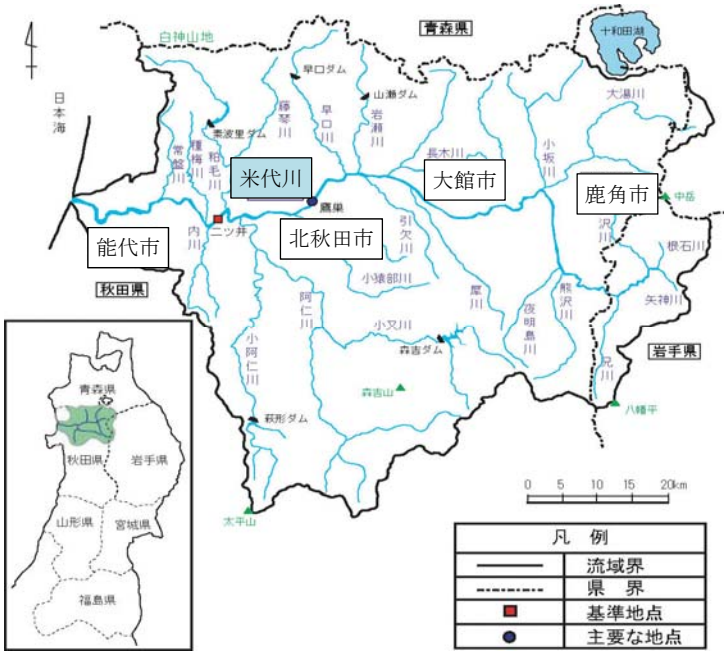
- １０年間の調査の結果、ゴミ分類の傾向に変化は見られず、河川内のゴミの**「約80%」が生活ゴミ**となっている。
- 本調査結果も含め、種々の啓発活動を行っているが、ゴミ分類に変化は無かった。
- 全国的にも河川ゴミが問題視されており、対応に苦慮しているところ。
  - 直轄河川109水系の河川ゴミ処理量は、年間約9万m3、費用は10～15億円/年。
  - 啓発活動も種々行っているが、効果には課題が多い。
  - 一方で、全国での河川清掃活動参加者は、約45万人と他には見られない規模となっており、一定の方々への啓発活動の効果は見られる。
  - 今後は、さらに流域全体で河川ゴミ対策に取り組む等の工夫が必要がある。



コラム

米代川　～地域と連携した水環境向上への取り組み～

米代川の概要
　米代川は、秋田、青森、岩手の3県境付近に位置する中岳（標高1，024m）にその源を発する、流域4，100k㎡、幹線流路延長136kmの一級河川です。
　流域は、5市、3町、1村（鹿角市、大館市、北秋田市、能代市、藤里町、小坂町、上小阿仁村、青森県田子町、岩手県八幡平市）からなっています。



①米代川流域一斉清掃

　米代川流域一斉清掃は、毎年８月初旬に「夏休み！ふるさとの川をきれいにしよう！」をスローガンに米代川の上流～中流～下流まで流域住民が一体となり一斉に清掃を行うもので、平成２９年度で８回目の開催となりました。
　この流域一斉清掃を主催する「米代川の環境を守る会」は、米代川流域住民の河川愛護意識の高揚と米代川の環境美化や保全を図っていくため、流域のごみ問題を流域すべての人々の課題としてとらえ、上・中・下流が一体となった河川愛護活動を実施することを目的に河川愛護団体（２０団体）などで構成されています。

「鹿角市、大館市、北秋田市、能代市各地区の９箇所で実施」









　主催者は、「クリーンアップを継続し行っていることでごみの量が年々減っている。このように市民運動として広がることで、河川環境を保全するという認識が高まっていると思う」と述べていました。
【平成２９年度　参加人数３４５名・ごみの量約４００ｋｇ】

コラム

米代川　～地域と連携した水環境向上への取り組み～

②沿川３市長参加のもと合同船上巡視を実施し河川環境の状況確認

平成２９年度からの取り組みとして、直轄沿川３市の市長参加のもと、水防担当者及び地元建設業協会と合同で、米代川でカヌー活動を行っている河川愛護団体の協力により「川下り」を行い、水上から河川環境、河岸及び護岸の状況を確認し、危険箇所の点検を実施しました。



「参加した市長のコメント」

【能代市長】

川からの視線で護岸などを巡視し、今後の水防活動等に役立てていきたい。

【北秋田市長】

普段は陸上からしか見られない。水面からの目線は新鮮でいろいろな景色が見えてくる。

【大館市長】

川下りをとおして、上流や下流の近隣自治体を含め、県北一帯で水防意識等の高揚を図れれば良い。



能代市長



北秋田市長



大館市長







関係機関の担当者が集合した合同船上巡視

３市長参加のもと、合同船上巡視により各関係機関と河川の状況を共有することができ、有事の際の連携強化に向け貴重な巡視活動となりました。

③能代市二ツ井町にアザラシ「ヨネちゃん」出現

平成３０年１月１７日朝、能代市二ツ井町の米代川の岩の上でアザラシが発見されました。岩の上で寝そべったり、顔をキョロキョロさせる愛嬌たっぷりの姿に、全国ネットのテレビニュースで取り上げられたり、インターネットで話題となり、堤防周辺に大勢の見物者が訪れました。河口から３０ｋｍ離れた山間部にアザラシが現れるのは珍しいとのことです。

翌日以降は姿を見せなかったものの、付近はその姿を待ちわびる人でふくれあがり、一時は堤防道路（市道）の安全確保のため車両通行止めの措置がとられるほどでした。地元の二ツ井町商工会や商店街は大勢の見物者にコーヒーや豚汁を振る舞うなどの大変な盛り上がりを見せました。アザラシの「集客力」に驚きです！





「ヨネちゃん」出現





↑一時車両通行止めに



←大勢の見物客

参考資料

河川の水質現況（BOD）と環境基準の満足状況

水系名	河川名	地点名	平成29年			
			環境基準（類型）	年間平均値（mg/L）	75%値（mg/L）	環境基準満足状況
阿武隈川	阿武隈川	阿久津	B	1.1	1.3	○
阿武隈川	阿武隈川	丸森	B	1.8	2.2	○
阿武隈川	阿武隈川	岩沼	A	1.2	1.6	○
阿武隈川	阿武隈川	高田橋	B	2.0	2.7	○
阿武隈川	阿武隈川	黒岩	B	1.4	1.9	○
阿武隈川	阿武隈川	須賀川	B	0.9	1.2	○
阿武隈川	阿武隈川	伏黒	B	1.1	1.4	○
阿武隈川	広瀬川	舟場	B	0.9	1.0	○
阿武隈川	荒川	荒川橋	A	<0.5	<0.5	○
阿武隈川	荒川	信夫橋	A	<0.5	<0.5	○
阿武隈川	釈迦堂川	下宿	B	0.9	1.1	○
阿武隈川	摺上川	摺上川ダム	A	0.7	0.7	○
阿武隈川	大滝根川	三春ダム	A	1.3	1.5	○
名取川	広瀬川	三橋	B	0.7	0.7	○
名取川	前川	北向橋	AA	0.5	<0.5	○
名取川	太郎川	いもくぼ橋	AA	0.5	<0.5	○
名取川	北川	北川橋	AA	0.5	0.5	○
名取川	名取川	名取橋	B	1.1	1.1	○
名取川	名取川	関上大橋	B	0.8	0.9	○
名取川	笊川	名取川合流前	C	0.9	1.1	○
鳴瀬川	吉田川	鹿島台	B	1.2	1.3	○
鳴瀬川	吉田川	落合	B	1.3	1.4	○
鳴瀬川	善川	善川橋	B	1.3	1.3	○
鳴瀬川	鳴瀬川	下中ノ目	A	1.1	1.0	○
鳴瀬川	鳴瀬川	三本木	A	1.4	1.2	○
鳴瀬川	鳴瀬川	小野	B	1.3	1.2	○
鳴瀬川	鳴瀬川	南郷	A	1.5	1.2	○
北上川	猿ヶ石川	安野橋	A	1.0	1.2	○
北上川	猿ヶ石川	落合橋	A	0.6	0.7	○
北上川	猿ヶ石川	谷内	A	0.6	0.6	○
北上川	旧北上川	鹿又	B	0.8	0.8	○
北上川	旧北上川	門脇	B	0.9	0.8	○
北上川	旧北上川	和渕	A	0.9	1.1	○
北上川	江合川	荒雄	B	0.9	1.0	○
北上川	江合川	轟	AA	0.5	0.5	○
北上川	江合川	大深沢	AA	0.5	0.5	○
北上川	江合川	短台	B	0.9	1.1	○
北上川	砂鉄川	門崎橋	A	0.7	0.7	○
北上川	雫石川	東北本線鉄橋	A	0.7	0.8	○
北上川	雫石川	御所ダム下流	A	0.6	0.6	○
北上川	雫石川	春木場	A	0.6	0.5	○
北上川	葛根田川	葛根田	A	0.6	0.6	○
北上川	南川	南川	A	0.6	0.6	○
北上川	小鬼ヶ瀬川	天子森	未	0.6	0.6	－
北上川	小友川	小友橋	A	0.6	0.6	○
北上川	前川（北上川水系）	前川	AA	<0.5	<0.5	○
北上川	胆沢川	下嵐江	AA	0.5	<0.5	○
北上川	胆沢川	再巡橋	A	0.7	0.8	○
北上川	胆沢川	胆沢ダム貯水池	A	0.5	<0.5	○
北上川	中津川	御殿橋	A	0.7	0.7	○
北上川	磐井川	狐禅寺橋	C	0.9	1.1	○
北上川	磐井川	上の橋	A	0.6	0.8	○
北上川	北上川	金ヶ崎橋	A	1.0	1.1	○
北上川	北上川	狐禅寺	A	1.0	1.3	○
北上川	北上川	珊瑚橋	A	1.0	1.0	○
北上川	北上川	四十四田橋(2)	A	0.7	0.9	○
北上川	北上川	紫波橋	A	0.9	1.1	○
北上川	北上川	昭和橋	A	1.0	1.1	○
北上川	北上川	船田橋(2)	A	0.7	0.8	○
北上川	北上川	大泉	A	0.9	1.1	○
北上川	北上川	朝日橋	A	1.1	1.2	○
北上川	北上川	登米	A	0.8	1.1	○
北上川	北上川	藤橋	A	0.9	1.2	○
北上川	北上川	南大橋	A	0.8	1.0	○
北上川	北上川	飯野川	A	1.0	0.8	○
北上川	北上川	飯野川橋	A	0.8	0.7	○
北上川	北上川	北上川橋	A	1.0	1.1	○
北上川	北上川	北上大橋	A	1.0	1.4	○
北上川	和賀川	九年橋	A	0.8	0.7	○
北上川	和賀川	山室橋	AA	0.7	0.7	○
北上川	和賀川	切留	AA	0.8	0.8	○
馬淵川	馬淵川	櫛引橋	A	0.9	1.3	○
馬淵川	馬淵川	尻内橋	B	0.9	1.1	○
馬淵川	馬淵川	大橋	B	0.9	1.0	○
高瀬川	高瀬川	上野	A	0.6	<0.5	○
岩木川	岩木川	安東橋	A	0.7	0.9	○
岩木川	岩木川	乾橋	A	1.6	1.9	○
岩木川	岩木川	三好橋	A	1.6	2.0	○
岩木川	岩木川	山田川河口	B	1.1	1.0	○
岩木川	岩木川	十三湖大橋	B	1.2	1.3	○
岩木川	岩木川	十三湖中央	B	0.8	1.0	○
岩木川	岩木川	上岩木橋	A	0.9	1.4	○
岩木川	岩木川	神田橋	A	1.3	1.4	○
岩木川	岩木川	鳥谷川河口	B	1.0	1.0	○
岩木川	岩木川	津軽大橋	B	1.3	1.5	○
岩木川	岩木川	鶴寿橋	A	1.4	1.6	○
岩木川	岩木川	幡龍橋	A	1.0	1.3	○
岩木川	浅瀬石川	朝日橋	A	0.7	0.8	○
岩木川	平川	平川橋	A	0.7	0.8	○
岩木川	平川	豊平橋	A	0.8	1.0	○
米代川	小又川	森吉山ダム	未	0.7	0.7	－
米代川	米代川	十二所	B	0.6	0.7	○
米代川	米代川	新真中橋（真中橋）	B	0.6	0.7	○
米代川	米代川	鷹巣	B	0.7	0.8	○
米代川	米代川	ニッ井	B	0.7	0.8	○
米代川	米代川	能代	B	0.7	0.8	○
雄物川	横手川	藤木上橋	B	0.9	1.0	○
雄物川	皆瀬川	岩崎橋	A	0.6	0.5	○
雄物川	玉川	玉川ダム	AA	<0.5	<0.5	○
雄物川	玉川	玉川橋	A	0.5	<0.5	○
雄物川	玉川	長野	A	0.5	<0.5	○
雄物川	成瀬川	真人橋	AA	0.6	<0.5	○
雄物川	雄物川	岳見橋	A	0.6	0.6	○
雄物川	雄物川	酒蒔橋	A	<0.5	<0.5	○
雄物川	雄物川	大曲橋	A	0.7	0.7	○
雄物川	雄物川	椿川	A	0.6	0.6	○
雄物川	雄物川	雄物川橋	A	0.6	0.6	○
子吉川	子吉川	宮内	A	0.6	0.6	○
子吉川	子吉川	本荘大橋	B	0.6	0.7	○
最上川	寒河江川	中村	AA	0.6	0.6	○
最上川	最上川	基点橋	A	0.9	1.0	○
最上川	最上川	谷地橋	A	0.9	0.9	○
最上川	最上川	糠野目	A	1.1	1.2	○
最上川	最上川	高屋	A	0.6	0.7	○
最上川	最上川	砂越	A	0.7	0.7	○
最上川	最上川	長井橋	A	0.9	1.0	○
最上川	最上川	堀内	A	0.8	1.0	○
最上川	最上川	両羽橋	A	0.6	0.6	○
最上川	鮭川	戸沢橋	A	0.5	<0.5	○
最上川	鮭川	八千代橋	AA	0.5	<0.5	○
最上川	須川	落合橋	B	0.9	0.9	○
最上川	相沢川	宝永橋	A	0.6	0.5	○
最上川	村山野川	舟戸橋	A	0.8	0.9	○
最上川	丹生川	丹生川大橋	A	0.6	0.6	○
最上川	置賜白川	白川ダム	A	0.6	0.5	○
最上川	置賜野川	長井ダム	A	0.6	0.5	○
最上川	立谷沢川	東雲橋	A	<0.5	<0.5	○
赤川	赤川	蛾眉橋（横山）	A	0.6	0.6	○
赤川	赤川	新川橋（浜中）	A	0.6	0.6	○
赤川	赤川	東橋	A	0.5	<0.5	○
赤川	梵字川	月山ダム	A	0.5	<0.5	○

河川の水質現況（COD）と環境基準の満足状況

水系名	河川名	地点名	平成29年			
			環境基準（類型）	年間平均値（mg/L）	75%値（mg/L）	環境基準満足状況
阿武隈川	白石川	七ヶ宿ダム	A	1.9	2.1	○
名取川	碁石川	釜房ダム	AA	2.2	2.4	
北上川	猿ヶ石川	田瀬ダム貯水池	A	2.3	2.7	○
北上川	江合川	鳴子ダム	AA	1.5	1.5	
北上川	雫石川	御所ダム貯水池	A	1.4	1.6	○
北上川	北上川	四十四田ダム貯水池	A	1.9	1.9	○
北上川	和賀川	湯田ダム貯水池	A	1.8	2.2	○
高瀬川	高瀬川	河口	A	3.8	4.1	
高瀬川	高瀬川	高瀬橋	A	3.8	4.1	
高瀬川	高瀬川	小川原湖(No.A)	A	3.8	4.1	
高瀬川	高瀬川	小川原湖(No.C)	A	4.0	4.3	
高瀬川	高瀬川	小川原湖(No.G)	A	10.6	13.1	
高瀬川	高瀬川	小川原湖(No.H)	A	4.3	4.6	
岩木川	浅瀬石川	浅瀬石川ダム	A	3.1	3.7	
最上川	寒河江川	寒河江ダム	A	1.9	2.4	○

●河川における類型別環境基準（ＢＯＤ７５％値）

AA 類型：１ｍｇ／Ｌ以下

A 類型：2ｍｇ／Ｌ以下

B 類型：3ｍｇ／Ｌ以下

C 類型：5ｍｇ／Ｌ以下

D 類型：8ｍｇ／Ｌ以下

E 類型：10ｍｇ／Ｌ以下

●湖沼における類型別環境基準（ＣＯＤ７５％値）

AA 類型：１ｍｇ／Ｌ以下

A 類型：3ｍｇ／Ｌ以下

B 類型：5ｍｇ／Ｌ以下

C 類型：8ｍｇ／Ｌ以下

平成 29 年東北地方一級河川の水質現況　概要パンフレット

Recent condition of water quality of class A river in Tohoku

http://www.thr.mlit.go.jp/

国土交通省 東北地方整備局

河川部 河川環境課

〒980-8602

仙台市青葉区本町 3-3-1　仙台合同庁舎Ｂ棟

Tel. 022-225-2171（代表）

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism Tohoku Regional Bureau